

ワークショップ「肝転移切除後の補助化学療法」

司会：山本 順司 先生(新東京病院 外科)

島田 和明 先生(国立がん研究センター中央病院)

【司会の言葉】

大腸癌治療ガイドライン 2019 の臨床的・クエスション (CQ19)によれば”遠隔転移巣切除後の補助化学療法は推奨されるか？”に対して、「肝転移治療切除後の術後補助化学療法を行うことを弱く推奨する」と記載されています。このように肝転移根治切除例に対する補助化学療法を標準治療として行う確固としたエビデンスは認められていません。しかしながら Stage III に対する補助化学療法の有効性が確立している現在、Stage III よりも再発リスクが明らかに高い Stage IV に対する補助化学療法を実地臨床の場で実施することは容認されるべきものと考えられています。同じくガイドラインでは「遠隔転移切除後の補助化学療法の最適な治療レジメンは現時点では確立していない」とあります。本ワークショップでは各施設での大腸癌やその他の転移性肝癌に対する肝切除後の補助化学療法に関する新しい試みと治療成績を提示し議論していただきたい。